

**製品名: PAX5 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86891**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.15mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:42 kDa; Observed MW:45 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PAX5
別名	ALL3; BSAP
遺伝子 ID	5079
SwissProt ID	Q02548
免疫原	ヒト PAX5 の合成ペプチド

**背景**

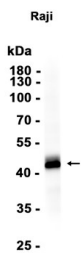
この遺伝子は、ペアボックス（PAX）転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝子ファミリーの中心的な特徴

は、ペアボックスとして知られる、新規かつ高度に保存された DNA 結合モチーフです。ペアボックス転写因子は初期発生における重要な調節因子であり、その遺伝子発現の変化が腫瘍性形質転換に寄与と考えられています。この遺伝子は、B 細胞分化の初期段階で発現しますが、後期段階では発現しません。この遺伝子の発現は発達中の中枢神経系および精巣でも検出されているため、コードされているタンパク質は神経発生および精子形成にも役割を果たしている可能性があります。この遺伝子は 9p13 に位置し、形質細胞様サブタイプの小リンパ球性リンパ腫および派生大細胞リンパ腫で再発する t(9;14)(p13;q32)転座に関与しています。この転座により、IgH 遺伝子の強力な E-mu エンハンサーが PAX5 プロモーターの近傍に位置するため、この遺伝子の転写調節異常がこれらのリンパ腫の病態に寄与していることが示唆される。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013 年 7 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



PAX5 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した Raji 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。